

# 第1学年国語科学習指導案

指導者 田中 洗平

## 1. 単元名・目指す言語能力

「思い出ファイル」をつくろう・体験を知らせる文章を書く力

## 2. 教材名

「こんな ことを したよ」(光村図書1上『かざぐるま』)

## 3. 児童の実態

本学級は、男子15名、女子12名、計27名の学級である。どの児童も何事にも興味を持って取り組むことができている。しかし、思いを素直に表現できる児童とそうでない児童がいる。板書された文字がなかなか書き写せない、言葉を単語として理解できない児童が数名おり、個別に声かけを行っている。

生活科で育てているアサガオの観察日記や日直のスピーチで自分の思いを積極的に表そうとする様子から、身近な題材に興味を持ち、それを表現したいと思っていることが分かる。本単元で取り上げる楽しかった体験を通して文を書くことにも興味を持って取り組むことができると思われる。

これまでの国語の学習では、平仮名の読み書きを学び、文字を読むこと、書くことに取り組んできた。「一が一する」という主語・述語に気をつけたり、助詞「は」「を」「へ」を使ったりして文作りをしてきた。

	6月の正答率	7月の正答率	誤字
うきわは、まるい。	92%	93%	うきわ→うきは
わさびは、からい。	88%	89%	わさび→はさび
はなをそだてる。	92%	100%	はな→わな
おりがみをおる。	88%	100%	おりがみ→をりがみ
えきへいく。	85%	81%	えき→へき
こうえんへいく。	77%	85%	こうえん→こうへん こおえん

助詞「は」「を」「へ」の習得率を調べる聴写を行ったところ、学習したばかりの6月と3週間後の7月では、総合的に正答率が上がっている。また、誤字も減っている。「うきわ」を「うきは」、「こうえん」を「こうへん」と書いていた児童の誤字が減少していることから、言葉を単語として着実に捉え始めていることが分かる。

	好き	どちらかという と好き	どちらかという と嫌い	嫌い
国語の勉強は好きですか	86% (23)	7% (2)	7% (2)	0% (0)
音読は好きですか	89% (24)	11% (3)	0% (0)	0% (0)
文を書くことは好きですか	74% (20)	18% (5)	4% (1)	4% (1)
本を読むことは好きですか	92% (25)	4% (1)	4% (1)	0% (0)
読みかせは好きですか	96% (26)	4% (1)	0% (0)	0% (0)
発表することは好きですか	59% (16)	26% (7)	11% (3)	4% (1)

この結果から、本学級の8割の児童は国語科を好きと答えている。その中でも、自分で文字が読めるようになってきたので、本を読むことは9割以上の児童が好き、どちらかと

いうと好き，と答え図書の時間は楽しそうに絵本を手にする児童が多い。また読みきかせも大好きで，図書ボランティアや担任の読みきかせを静かに集中して聞くことができる。

しかし，「文を書く」「発表をする」という質問には，「好き」と答える児童はあまり多くない。その理由として，五十音の学習が終わったばかりで，十分に使えない，文をどのように書いていいのかわからない，促音・拗音・拗長音の表記が難しい，書くことに時間がかかるなどの実態が考えられる。また，発表することが嫌いだと答えた児童に理由を聞くと恥ずかしいという意見だった。この結果から，文を書くことに慣れて正しい表記ができるようになること，文で伝える楽しさを経験することができれば，発表にも自信が持てるようになり「書くこと」が好きな児童が増え，意欲的に文が書けるようになる考えた。

#### 4. 指導の内容と言語活動，教材のかかわり

##### (1) 言語活動設定の意図

本単元は，6月に学習した「すきなことなあに」の次の「書く」ことの単元である。「すきなことなあに」では，「ぼくは，ほんをよむことが好きです。ほんをよむと，わくわくするからです。」というように「好きなこと」と「その理由」を文と文の続き方に注意し，二文で書く学習をした。書いた文を隣の席の友だちと読み合っ，感想を伝える経験をしている。

本単元は，学習指導要領「B 書くこと」(1)ア「経験したことや想像したことなどから書くことを決め，書こうとする題材に必要な事柄を集めること」，ウ「語と語や文と文との続き方に注意しながら，つながりのある文や文章を書くこと」，オ「書いたものを読み合い，よいところを見つけて感想を伝え合うこと」をねらいとしている。このねらいを達成するための単元を貫く言語活動として，「B 書くこと」(2)言語活動例イ「経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと」を設定した。経験したことには，生活科の「なつとあそぼう」で水遊びをする活動やプールでの学習などの楽しかったことを取り入れる。この時期における書くことの学習の意義の一つは，文を作る喜びを感じる。それは，自分の考えや思いが文になるという喜びである。もう一つは，伝える喜びを感じる。相手に読んでもらい，相手が喜んでくれたり，感想を言ってもらったりすることによって得る喜びである。そのために，個に応じたワークシートを使い文の数を増やしたり，3文以上書いたら色塗りをさせたりすることで達成感を味合わせ文を作る喜びを感じさせていく。また，身近な人と絵日記を読み合い，感想を書いて伝え合うことで，伝える喜びを感じさせていく。本単元では，一人一人が身近な出来事を文や文章にする喜びを味わう学習を通して意欲的に書く子どもの育成を意図している。

##### 5つの言語活動

- ① 相手意識・・・身近な人に
- ② 場面状況意識・・・学校や家で
- ③ 目的意識・・・楽しかったことを知ってもらうために
- ④ 方法意識・・・絵日記を書き，
- ⑤ 評価意識・・・身近な人に伝わる文章を書くことができたか

(2) 教材の特徴

本教材は、体験を知らせる絵日記を書くものである。教材の特徴には以下の3点がある。

- ① 題名を付けることで書く内容が分かりやすい。
- ② 絵が描いてあるので、書きたい文の内容が想像できる。
- ③ 「したこと」と「思ったこと」が平易な文で書いてあり、分かりやすい。

体験したことについて「したこと」と「思ったこと」を三文程度の文章で表せるようになることを目指したい。一年生は、思い出した事柄を一字一字文字化して把握していくことは難しく、書いているうちに思い出したことが変化してしまう。これを補うために、まず絵を描くことによって思い出したことを定着させ、その絵を基に、文章を書いたり書き足したりすることが有効であると考えられる。本教材では、これらのことを踏まえ、絵による焦点化をしてから、それを文にするという手順で進めていく。また、文末の表記「～しました。」「～します。」「～でした。」や、助詞「は」「を」「へ」の使い方に着目させ、丁寧に書くことを意識させたい。

(図1) 教員作成の成果物や児童に見本として示す文章



5. 日常の取組

- ・朝の会での日直のスピーチ
- ・連絡帳にその日の一言感想
- ・帰りの会での「よかったこと楽しかったこと」のスピーチ
- ・生活科の観察カード
- ・読書、読みきかせ
- ・既習の学習事項の復習プリント

6. 指導の目標

- ◎知らせたい体験から必要な事柄を思い出し、語と語、文と文とのつながりに気をつけて書くことができる。
  - 長音、拗音などの表記や助詞を正しく使うことができる。
- 書（１）ア・ウ，伝国（１）イ（エ）

7. 指導計画と評価計画（B領域「書くこと」）

（１）評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
①自分の体験を思い出し、書く意欲を高めている。	①体験を詳しく思い出して、書くことを集めている。（１）ア ②体験とそのときに感じたことを三文程度で書いている（１）ウ	①長音、拗音などの表記や助詞「は・を・へ」を正しく文の中で用いている。（１）イ（エ）

（２）学習過程の概要

単元を 貫く言 語活動	指導 過程	次	重点	主たる学習指導	評価規準・評価方法 □観点（ ）方法
楽しかったことを身近な人に伝えよう 	つ：課題 か：設定 む：見通す	1	課題設定	1. 体験を基に絵日記を書き、身近な人に知らせることを確認する。	・楽しかったことを進んで思い出そうとしている。 関①（発言）
	集：書きぶり め：を学ぶ る：学ぶ ・：適用する 選：下書き ぶ：下書き 組：下書き み：下書き 立：下書き て：下書き る：下書き ・：下書き 下：下書き 書：下書き き：下書き す：下書き	2	取材・構成・記述	2. 生活科の水遊びを共通の話題にして絵日記を書く。  3. 「プールでの宝拾い」「国語の音読劇」二つの題材から書くことを決め、絵日記を書く。	・体験したことを思い出して、「したこと」「思ったこと」を三文程度で書いている。 書②（ワークシート） ・長音、拗音などの表記や助詞「は・を・へ」を正しく使って書いている。 言①（ワークシート）  ・二つの題材から書くことを決め、体験を詳しく思い出して、書くことを集めている。 書①（ワークシート）

楽しかったことを身近な人に伝えよう

伝える ・振り返る	表現課題の確認	交流	4. 前時に書いた絵日記を友だちと読み合う。	・互いの絵日記を読み合うことで、語彙を増やし、書く意欲を高めている。 関① (付箋)
下書きする	適用する	記述	5. 休日に体験したことから題材を決め、絵日記を書く。	・体験したことを思い出して、「したこと」「思ったこと」を三文程度で書いている。 書② (ワークシート)
つかむ ・見通す ・集める ・選ぶ	3 課題設定 ・書きぶり を学ぶ	課題設定 ・取材	6. シャボン玉遊びをしたことの絵を描き、教師の成果物をもとに文の書き方を振り返る。	・体験を絵に表すことで、書くことを決めている。 関① (ワークシート)
集める ・選ぶ 下書きする	適用する ・選ぶ	取材 ・記述 本時	7. シャボン玉遊びの絵について、友だちと会話しながら書くことを集め、文を書く。	・「したこと」「思ったこと」を三文以上で書いている。 書② (ワークシート)
清書す	表現課題		8. 前時のものを清書する。絵日記を読み合い、感想を伝え合う。	・家の人に読んでもらうことを意識して丁寧に清書することができる。 言①(ワークシート)

題 の 確 認 ・ 振 り 返 る	交 流	・お互いの絵日記を読んだ感想を伝え合い、書く意欲につなげている。 関①(ワークシート)
---	--------	--

(3) 指導と評価の計画

次	時間	主な学習活動	指導上の留意点	Aの姿	Cの児童への手立て
第一	1	◆体験を基に絵日記を書き、身近な人に知らせることを確認する。	・学習のめあてを確認させる。 ・教科書の作例で書き方を理解させる。	・絵日記の書き方を確かめながら、書く意欲を高めている。 関①(発言)	・教科書の作例と一緒に音読する。
第二	2	◆生活科の水遊びを共通の話題にして絵日記を書く。	・知らせたい場面に絵に描くことを確認させる。 ・「思ったこと」は初めて書くので、例を出して補足説明をする。	・知らせたい場面の絵を描いて、それに合った文を書くことができる。 書②(ワークシート)	・描いた絵を基に教師と会話しながら、書くことを集め、文を書かせる。
	3	◆「プールでの宝探し」「国語の音読劇」二つの題材から書くことを決め、絵日記を書く。	・「したこと」や「思ったこと」を何人かの児童に発表させ、他の児童の参考にさせる。	・伝えたい題材を決め、それを <u>書くために必要なことを集めている。</u> 書①(ワークシート)	・描いた絵を基に教師と会話しながら、書くことを集め、文を書かせる。
	4	◆前時に書いた絵日記を友だちと読み合い交流する。	・友だちと読み合い、感想を伝え合う中で語彙を増やすようにする。	・友だちと読み合うことで伝える喜びを知り、 <u>書く意欲につなげている。</u> 関①(発言・付箋)	・読んで感じたことを教師と会話しながら文に書かせる。
	5	◆休日に体験したことから書く題材を決め、絵日記を書く。	・書きたいことを明確にさせるために二人一組になってインタビューさせる。 ・三文書けたか、何文書いたか確認させる。	・「したこと」と「思ったこと」を <u>三文以上</u> 書いている。 書②(ワークシート)	・教師と会話しながら思い出して詳しく絵にさせる。 ・教師と会話しながら文を書かせる。

第三次	6	◆シャボン玉遊びをしたことの絵を描き、教師の成果物をもとに文の書き方を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を見せながら、シャボン玉遊びを思い出させ、絵を描かせる。</li> <li>・絵日記での文の書き方を確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャボン玉遊びの中で知らせたいことを決め、<u>進んで</u>絵に表している。</li> <li>関① (ワークシート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が質問しながら伝えたいことがはっきりと分かるように描かせる。</li> <li>・サイドラインを引かせ、「したこと」「思ったこと」を視覚的に捉えさせる。</li> </ul>
	7	◆絵をもとに会話をし、文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでインタビューさせる。</li> <li>・インタビューで答えたことを使って文を書かせる。</li> <li>・声に出して読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「したこと」と「思ったこと」の文を<u>四文以上</u>書いている。</li> <li>書② (ワークシート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文作りの観点だけでなく、五感カードの質問項目を用意し、書きたい事柄を思い出させる。</li> <li>・最後まで書く喜びを味わうために、マス目の少ないワークシートを使わせる。</li> </ul>
	8	◆前時のものを清書して、友だち同士で読み合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家の人に知らせる」ことを確認して、丁寧に清書させる。</li> <li>・お互いの絵日記を読み合い、感想を伝え合う場にする。</li> <li>・友だちや家の人からのコメントを次への意欲づけとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家の人に読んでもらうことを意識して、<u>丁寧に</u>清書することができる。</li> <li>言① (ワークシート)</li> <li>・お互いの絵日記を読んだ感想を<u>進んで</u>伝え合っている。</li> <li>関① (発言・付箋)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスからはみ出さないように助言する。マスを空けるときには、どこに書けばよいか指で押さえさせたり鉛筆で薄くししをつけたりして教える。</li> <li>・読んだ感想を教師と会話しながら文に書かせる。</li> </ul>

## 8. 本時の指導

(1) 日時 平成28年9月5日(月) 3校時

(2) 対象 1学年3組 27名

(3) 目標 インタビューをもとに、様子が伝わる文を書くことができる。

(4) 授業の展開

学習過程	児童の学習活動と内容	指導・支援上の留意点	評価規準 □観点 ( ) 方法
つかむ 10分	1. 前時の復習をする。 2. 本時のめあてを知る。 ・インタビュー形式で交流し、文を作ることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューから文作りまでの流れをデジタル機器を使って視覚で捉えさせる。</li> <li>・黒板にもその流れとインタ</li> </ul>	

		ビュー項目を掲示しておき、いつでも確認できるようにしておく。	
<b>いんたびゅうしあって、しゃぼんだまあそびのことをかこう。</b>			
考 え る ・ 深 め る 25 分	3. インタビューカードを使って二人一組になりインタビューする。  4. インタビューをもとに文を書く。  5. 書いた文を読み返す。  6. 書いた文を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューしあうことによって伝えたいことを明確にする。</li> <li>・書き出しの一字下げ、句読点の表記について確認する。</li> <li>・インタビューをもとに、「文作りの観点」「五感」を使った文になるように助言する。</li> <li>・書いた文を声に出して読ませる。</li> <li>・三文以上になっているか、ワークシートのチェック欄に色を塗らせたり何文書けたか記入させたりする。</li> <li>・発表する際には、声のものを提示し、全員に聞こえるように発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体験を思い出し、書く意欲を高めている。<b>関①</b>（発言）</li> <li>・体験とその時に感じたことを三文以上で書いている。<b>書②</b>（ワークシート）</li> <li>・長音、拗音などの表記や助詞「は・を・へ」を正しく文の中で用いている。<b>言①</b>（ワークシート）</li> </ul>
ま と め る 10 分	7. 学習をふり返る。 ・次回の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふり返りカードに今日の自己評価と感想を書かせる。</li> <li>・次回の学習内容を知らせる。</li> </ul>	

(5) 本時の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
自分の体験を思い出し、書く意欲を高めている。	体験とそのときに感じたことを三文以上で書いている。	長音、拗音などの表記や助詞「は・を・へ」を正しく文の中で用いている。

## 9. 成果と課題

### 【成果】

- 「低学年では体験したことが書く意欲へと繋がる」という前年度の実践研究を参考に、学習過程の中に体験したことを文にする活動を計画的に取り入れることができた。
- 文の数を三文以上と定めることにより、児童に明確な目標を持たせることができた。また、ワークシートにチェック欄やマス目を設けることで、成果を視覚化し達成感を持たせることができた。
- 大型テレビと黒板を併用して学習の流れを視覚化し、見通しを持たせることができた。
- 文を書き出す前に、お互いの絵を見合ってインタビューさせた。友達からの質問に答えることによって、何を書きたいのか明確にさせるための支援を、学習の中に取り入れることができた。
- ふり返しカードを使用することで単元の流れをつかませ、見通しを持たせることができた。また、自己評価と授業の反省に初めて取り組んだ。
- 交流の場では、互いの日記を読み合い感想を伝え合ったり、家の人から感想をもらったりして、書いた喜びを感じる児童の姿を見ることができた。

### 【課題】

- ▲本時では、マス目形式のワークシートを使用したことにより句読点や拗音、促音の表記指導にも有効的であったが、脱字があった児童には大幅な書き直しをさせることになってしまった。文作りに慣れていない1年生には、行数に差をつけた罫線形式のワークシートを用いる方法も有効である考えられる。
- ▲相手意識を高めるための工夫が欠けていた。
- ▲本時のインタビューを取材と位置付けている。本時で扱ったインタビュー項目が児童の書こうとする内容と必ずしも一致しておらず、文作りでの伸び伸びとした表現を制限してしまっただけのように感じた。
- ▲書く力の向上を考えると「思ったこと」の文末表現を発表の場でクローズアップさせる必要があった。児童の文を全体に紹介することにより、学級の書く力を高めていく指導もできた。

### 【指導・助言】

- ・ワークシートの選択をどうするかが難しい。
- ・トマトの色塗りを一斉にすると、より達成感を感じられたのではないか。
- ・導入のテンポが速く、教師主導になっていた。時には、立ち止まり児童に思考させる場面があるとよかった。
- ・質問と答え方の話型も身につけさせる指導をするとよい。
- ・インタビューは、同じ内容だったので3回しなくてもよかったのではないか。
- ・インタビューの中に「いつ、どこで…」という項目があると書き始めに直結させることができたのではないか。
- ・インタビューの中に「家族に知らせたいこと」という項目があると相手意識を高めることができたのではないか。



